１８歳の夏

和　多　孝　行　さん

昭和２０年５月，第一期海軍特別幹部練習生として大竹海兵団に入団。基礎課程が終る７月ジフテリア(※1)に感染し岩国海軍病院で加療(※2)中，奇しくも８月６日，広島に投下された新型爆弾（原子爆弾）炸裂(さく)(※3)直後の模様を望見(※4)した。

広島と病院（山口県藤生町）とは直線距離で約４０キロ，厳島が左手に見える外は海上に遮るものはなく，視界は抜群。

その日は朝から快晴。海岸近くの丘に建つ伝染病々棟２階の大部屋で，１５名の病兵が安静時間をベッドですごしていた。

突然，「ドッドーン」と　肚(はら)に応える轟音(ごうおん)。「何だ！　空襲か！」室長が窓へ走る。先任(※5)は階下(※6)の事務室に飛んだ。先日，屋上の赤十字マークを無視した米艦載機の機銃掃射を受けたばかり。病兵ながら敏捷(びんしょう)(※7)であった。

外を見ると，広島の上空に積乱雲のような大きな煙が，立ち昇っていた。

「弾薬庫(※8)か。手荒くやったもんだ！」

パラオ(※9)警備隊還りの水兵(※10)長が呟(つぶや)く。灰黒色の煙は生き物のように横に拡がっていく。

不気味に成長し形を変え，キノコのようになってきた。広島の街がスッポリと傘の下，という状況。余りの変化に言葉が出ない。

しばらく経ってみると，雲は更に拡がり近郊(※11)まで達して垂れ下がり，霞(かす)んでいた。どうやら夕立らしい。

午後になって情報が流れ，弾薬庫などの爆発ではなく，米爆撃機Ｂ２９が投下した新型爆弾の炸裂(さく)で被害甚大(※12)，市街が壊滅(※13)したという。

家屋，施設は倒壊(※14)，死者・負傷者続出だが詳細は不明。医療機関の機能不能。他市町村隣県から応援が入っているとのこと。当院にも出動命令が下ったという。道理(※15)で昼の検温時に，明るく元気者のＫ当直(※16)看護婦が，姿を見せなかったはずである。

それにしても何と恐ろしい爆弾だろうか。ただの１発ですさまじい破壊力。驚くばかり。

更に３日後，長崎にも投下。この調子が続けば日本が完全に廃墟(はいきょ)(※17)となる日は遠くはない。

「日本もいよいよ最期(※18)か」ふとそんな想いが掠(かす)めるのだった。数日後，被爆の実状を目のあたりにすることになる。

念願の退院が１２日の午後に決まった。部屋の出入口にも近いベッドともサヨナラ！

当日の昼食後，病棟看護婦長，室長に挨拶をすませ，病院本部に向う。そこで配置先・呉警備隊入隊の指示を受けた。

藤生駅の時計は時刻表を過ぎていたが，改札口には乗客の列。輸送は軍需(※19)優先，それに警報発令が重なりダイヤの乱れは日常(※20)茶飯時。

やがて広島行が到着，超満員である。だが乗らなくてはならない。強引に割り込みステップに立ち，握り手金具に腕を通す。背負った衣嚢(※21)が人に迷惑するが，許しを願う他はない。この場所は涼しく視界満点。しかし粗悪(※22)な石炭を焚(た)くＳＬの吐く不燃の粒が，顔を直撃する。まさに光と影であった。

懐かしい大竹駅を出ると廿日(はつか)市駅。太田川の鉄橋も近い。ここを渡り切ってから沿線の庭木がおかしい。変色した葉，黒ずんだ幹と普通ではなかった。列車が徐行なみの速度だからよく見え，分かり易い。

列車が進むにつれて変貌してきた。木の葉が茶褐～赤褐色，幹が焦げて黒い。アカマツの大木が南面する葉は赤褐色，幹が炭化して居り，木を縦に自然色と２色塗りしたようで，とても天然木とは思えない。

石の鳥居，灯篭(とうろう)が倒れて散乱し，角がとれて変形していた。石垣が黒ずみ，割れ，中にはタマネギを剝いだような割れ方もあった。

よほどの高熱に曝(さら)されたに違いない。家屋の破損，倒壊が増え満足なものはない。広島駅に入構。目に飛び込んだのは屋根のない駅舎，プラットホーム。プラットの屋根を

支える鉄骨が飴(あめ)のように曲がって線路に垂れ，コンクリート床の中央が大人の拳が入る程に割れて傾き，端まで続く。駅舎の壁に上から下へイナズマ型の裂け目があり，憐(あわ)れな姿で真夏の太陽を浴びていた。呉線発車まで街を見ようと地下道に降りる。

そこには担架がズラリ。担架の上には顔中に白い塗り薬，顔や手足を包帯巻き，とさまざまな姿で横たわっている。傍らに坐(すわ)り，立膝に顔をうめる女性もいた。臨時収容か，移送中なのか。被爆後１週間が経とうというのに。玄関に出る。街がない。見渡す限り瓦礫(がれき)(※23)。

軍都(※24)・広島の面影は一片(※25)も留めず，荒涼とした光景の中，傾くビル，半壊の土蔵(※26)，黒焦げの大木が点々とするのみ。その中を，海風が嘔(おう)吐を催させる異臭(※27)を運んでくる。想像以上の光景に立ち竦(すく)み言葉もない。

やる瀬なく目を落すと，裂けた水道管が水を噴き，小さな虹を作っていた。地獄絵の中に虹…。思わず近寄り，時を忘れて眺めていた。

あれから７０年。世に「美しき１０代」というが，わが１０代－１８歳の夏は巷(ちまた)(※28)の言とは縁遠く，二度と望まない夏でした。

※1 ジフテリア…ジフテリア菌の感染によって起こる，主として呼吸器の粘膜がおかされる感染症。
※2 加療…気やケガの治療をすること。
※3 炸裂…砲弾などが激しく爆発すること。
※4 望見…遠くからながめること。
※5 先任…先にその任務・地位に就いていること。また、その 人。
※6 階下…下の階。
※7 敏捷…動作がすばやいこと。
※8 弾薬庫…弾丸や火薬を貯蔵する倉庫。
※9 パラオ警備隊…パラオ諸島の防衛に参加した部隊。
※10 水兵長…旧海軍における水兵科の兵の最上位の階級。
※11 近郊…都市や町に近い場所。町はずれ。
※12 甚大…物事の程度が非常に大きいさま。はなはだしいこと。
※13 壊滅…すっかりこわれてなくなること。
※14 倒壊…建物などが倒れてこわれること。
※15 道理で…そうである原因・理由がわかって納得するさま。

※16 当直…日直や宿直にあたること。また、その人。
※17 廃墟…建物や街などの荒れ果てたあと。
※18 最期…死にぎわ。
※19 軍需…軍事上必要とされること。また、その物資。
※20 日常茶飯事…毎日のありふれたことがら。
※21 衣嚢…海軍下士官兵が衣類を整理して入れておくキャンバス製の布袋。
※22 粗悪…粗末で質が悪いこと。
※23 瓦礫…破壊された建造物の破片など。
※24 軍都…軍の施設の多い都市。
※25 一片…ひときれ。ひとかけら。
※26 土蔵…外壁を土や漆喰（しっくい）などで塗り固めた倉庫。
※27 異臭…変なにおい。いやなにおい。
※28 巷…世間。世の中。